

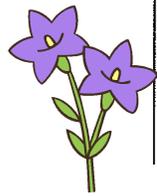
Box

大切な人のそばに居続ける



私はつらい思いをした時、家族の優しい言葉に救われたことがある。
人がつらい思いをしてそこから立ち直る時、そばにはものでも神さまでもなく、誰かしら大切な人が居ると思う。その人の言葉や行動、あるいはその存在自体に優しさという愛情があるのだと私は考える。
優しさを表現し分け与える。このような人間にしかできないことは、一人ではなし得ることではないものだと思う。
私が小さかった頃、保育園や小学校の先生が「みんな一緒に」という言葉をよく使っていた覚えがある。この時期に私たちは人に優しくすることを学び、同時に、他の人とともに、一つの物事を成し遂げる喜びや達成感なども学んだのだと思う。
私たちはあくまでも集団で生きる生き物であり、互いに助け合わなければならぬのだと思う。優しさは分け与えてもなくなるものではないのだから、私は大切な人のそばに居続けたいと思う。

(高校生 神戸市兵庫区) 18歳



○14年間の中でいろいろなことがありました。この記事のように助けてもらったり、助けたりしました。このときやっぱり人間は一人じゃだめだなと思いました。私もいろんな周りの人から助けてもらいながらここまでできたので、そのことに感謝しながら過ごしていきたいです。

○僕も学校の先生から「みんな一緒にね」と声をかけられて、その時は「なんでみんな一緒にするんやろ」と思いました。だけど、学年があがるごとに「みんな一緒に！」は一人でできない場面に互いで助け合うことなんだと思いました。それに、一人で達成するのもいいけど、みんなと物事を成し遂げたときの方が、達成感は何倍にも広がるので、「みんな一緒に」という言葉を使うんだと思いました。大切な人は絶対に自分の近くにいます。大切な人と助け合い、支え合うのも大事だ。その大切な人がそばにいて、自然と笑顔になり、その人から力がもらえと思う。だから僕も大切な人のそばに居続けたいです。

○僕はその人の存在自体に優しさという愛情があるという部分にとっても共感しました。人間は1人では生きていけないものだと思います。それは優しさを求めているのかなと思いました。友達といくと、何もなくてもダラダラ話しているだけで、楽しいと感じたことが何度もあります。それはその友達から優しさを感じているからなのかなと思いました。これからは周りにいる友達を大切にしたいです。

○もし、自分がとてもつらい思いをした時に、周りに誰もいなければ、立ち直ることはできないと思う。自分を助けてくれる人が必要だ。その人が助けてくれるかどうかは私自身の行動によって決まるものだと思う。私が日頃から意地悪で人のことを考えなければ、周りの人は私を「悪い人」と見る。逆に誰にでも優しく、困っている人を助けるような人であれば周りの人は私を「助け甲斐のある人」と見る。「この人が困るのは自業自得だ」と言われられないような行動をとろうと思う。「優しさは分け与えても無くならない」というのはとてもよい言葉だ。たくさんの人に無限の優しさを届けられるような人になりたい。

○家族や友達とかはいつも用事や約束もないのに顔を合わせるのが普通の生活になっている。私は毎日一緒にいるのがあたりまえすぎて、そんな存在の人たちがどれだけ大切なのかかわかっていない人が多いと思う。今の生活で必要不可欠な存在だと思う。理由は今日家に帰ったら誰もいなくてどれだけたっても帰ってこないという怖い不安だから。この記事の人とは少し違う内容だけど、大切な人の存在が支えになっているというのは、共通していると思う。

○僕はこの記事を読んで、改めて人は集団で生きる生き物だということを考えさせられました。小学校の時に、「人という字は、人と人が支え合っているんだよ。」と言われたことが何度かありました。僕がこれらを聞いてその通りだと思ったことは、今取り組んでいる体育大会、文化祭、そしてクラス、学年などのものです。これらのことは、人が支え合わないと成り立たないし、たった1人だけの力で全部を動かすのは難しいからです。なので、クラスでも委員長に頼らずに、1人1人が支え合っていたら、いい体育大会、文化祭、クラス、学年になると思いました。

○人には優しさがとても必要なものだと思う。優しさがあれば災害が起こった地域とかも早く助けられるし、嫌なニュースなんか流れてこない。私は殺人とかのニュースを見るたび嫌な気持ちになる。でもいいニュースが多い日は今日も頑張ろうって思うし、みんな幸せな気持ちになれる。嫌な気持ちにしかならないものは見たくない。もっとみんなが優しくなれたらいいなっていつも思う。だからまずは私がみんなに優しくしようと思った。少しの人数でも優しい気持ちを広めたいなって思います。

○優しさとか人と人とのつながりが改めてすごいなと思った。特に優しさは書いてあるとおりに分け与えてもなくなったりしなく、むしろ本当にその気持ちが伝われば、相手も優しさを返してくれるぐらいのものだと思う。話すのが苦手だったり、人と関わるのが苦手でも、優しさは言葉にしなくても行動でも伝わるからいいと思う。お互いに、その人のことを思いやって、助け合いながら生きていける、暮らしていける関係っていいなと思った。

○私もこの先、自分のすぐそばに大切な人が居続けてくれたらいいなと思った。大切な人がそばにいてはとても幸せなことだと思う。そして大切な人たちと優しさを分け合うことは難しいことでは無いはずだ。優しさを大切な人に分け合ったら、きっと他の周りの人にも優しくできると思う。そうすれば自分の周り全体が幸せになっていくのではと思う。だから、まずは自分の大切な人を大切に、優しさを分けあっていくところから始めようと思う。

○私は大切な友達がいっぱいいます。その一人一人は皆、自分を分かってくれる人たちばかりです。他人に優しくされたかったら、まずは自分が優しくなりなさい。こんな言葉があります。確かにその通りです。ふつうに生活してて、他人に優しくするなんて、みんなあたりまえのようにできるでしょう。じゃあ自分がつらい時は？ 苦しい時は？ 他人に優しくする気になれないと思います。しかし、自分以外の他の人にとっては、普通の生活に変わりはありません。だから、助けてくれるんです。「人と人は支え合って生きている」というのはまさにこのことだと思います。だから友達を大切にしたいです。

○考えてみると、僕にとって大切な人は家族とほんの数人の友達で、他の人よりは少ない方なのかもしれない。だけど、少ない方がいいんじゃないかと思う。なぜなら、少ない方が一人一人の大切さに、より気づきやすいと思うからだ。自分も誰からも信頼されるような人になりたい。

○私は今まで自分のことばかり考えていて、他人に優しさを分け与えるなんてしたくないと思っていました。でもこの記事を読んで、自分が持っている優しさを分け与えても、自分に優しさがなくなるものではなく、むしろその相手と共に優しさを感じられるのだから一石二鳥だと思いました。人間は誰一人として生きられる人はいません。絶対に誰かに助けられて生きています。私もそう思います。そして、今、私は中学3年生です。まだまだ助けられることもたくさんありますが、次は私も助ける側にも立てると思います。